

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

日時 令和5年1月25日(水) 第5校時
対象 第5学年2組 39名
授業者 山口 竜也
会場 校庭

研究主題

めあてに向かって主体的に学び、考える児童の育成
～キャリア教育を通して～

1 単元名

大北ワールドカップ

2 単元の目標

フットサル選手と触れ合ったりチームで話し合いをしたりする活動を通して、スポーツの素晴らしさやスポーツマンシップの大切さを実感するとともに、様々な活動で得た自己やグループのよさを紹介することができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①スポーツの素晴らしさやスポーツマンシップの大切さを理解している。 ②課題を解決するための過程を理解し、学習に見通しをもって取り組んでいる。	①課題を発見し、解決の方法や手順を考え、見通しをもって取り組んでいる。 ②自己やグループのよさや特徴を発見し、記録している。 ③課題解決に向けて必要な情報を精査し、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら考えをまとめている。 ④自己のよさや特徴を理解し、まとめている。	①課題解決に向けた自己の取組を通して、主体的に探求的な活動に取り組もうとしている。 ②仲間と言葉を掛け合い、他者と協働し、問題解決を図ろうとしている。 ③探求活動を通して、自己とスポーツ・ワールドカップ・国際社会・地域社会を結び付け、学びを今後の生活や行動に生かそうとしている。

4 単元設定の理由

(1) 単元について

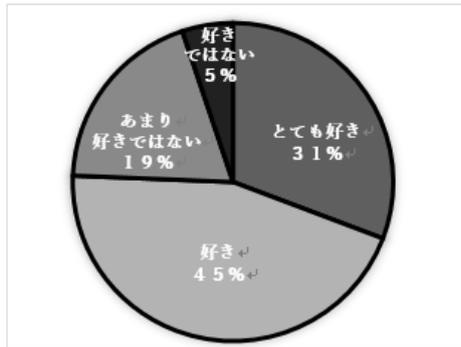
本単元で扱う内容は、学習指導要領第3章第3節目標及び内容の取扱いに基づいて構成されている。

- (2) 各学校において定める目標及び内容については、他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ、他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を重視すること。
- (3) 各学校において定める目標及び内容については、日常生活や社会との関わりを重視すること。
- (5) 目標を実現するにふさわしい探求課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、福祉、健康など現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・感心に基づく課題などを踏まえて設定すること。

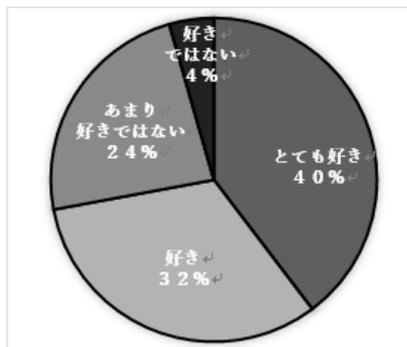
本単元では、学習のゴールを「自分のよさを理解してまとめよう。」とする。課題解決に向けての過程や友達との言葉の掛け合いによって様々な活動を通して、教科横断的な視点で考えた根拠をもとに、どのチームも自分らしさを紹介できるようにしたい。

(2) 児童の実態

1. 体育の学習は好きですか。(5年 78人)



2. ボール運動は好きですか。(5年 78人)



〈1. 2のグラフより〉
 体育全体に対して
 も、ボール運動に対し
 ても、70%以上の児童
 が好意的に捉えている。
 しかし、25%前後の児童
 が「好きではない」と回
 答していて、一定数、
 体育の楽しさに気付い
 ていない児童が分かる。

3. ボール運動で楽しいと感じるときはどんなときですか。

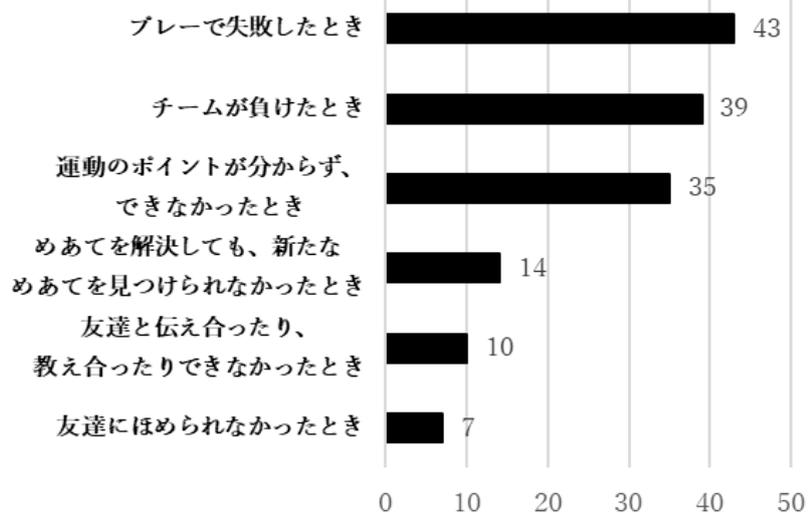
(複数回答可) (5年 78人)

78人)



4. ボール運動で楽しくないと感じるときはどんなときですか。

(複数回答可) (5年 78人)



〈3、4のグラフより〉

多くの児童が、チームの勝敗や自分自身のプレーの成功・失敗という分かりやすい結果にボール運動に対する意欲を左右されている。課題解決に向けての過程や友達との言葉の掛け合いにおいては、「楽しさ」を感じていないようである。これは、本学年の児童が第2学年3月よりコロナ禍に入り、他人との身体的接触を制限されていたことも一因と考えられる。一方、友達と一緒に練習をすることに楽しさを感じている児童も多い。

そこで、プロの選手との触れ合いや体育科「サッカー」の学習を通して、自己やチームのよさや特徴を知り、高め合う中でスポーツの素晴らしさやスポーツマンシップについて実感させ、理解を深めさせたい。

(3) 教師の願いと指導の工夫

- 自己や友達のよさを見付け、自信をもって取り組んでほしい。
- スポーツの得意な児童も苦手な児童も、友達と高め合いながら楽しんでほしい。

本単元の学習は、キャリア教育で育成すべき力である基礎的・汎用的能力のうち、「自己理解・自己管理能力」の育成に関連する。「自己理解・自己管理能力」とは、小学校キャリア教育の手引きにおいて

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

と記載されている。教科横断的な学習として体育科「サッカー」と絡めて指導を行う。特に、ゴール型の攻守が入り乱れるゲームの中では作戦を意識した行動が求められるため、自分やチームの力を理解した上で活動することが「次のことを考える力」の育成に繋がると考えた。

(4) ゲストティーチャーの活用

本単元では導入時にゲストティーチャーを招き、児童の関心や意欲を高めたい。プロの世界でも得意不得意があり、仲間と協力し合って練習をしていることや、選手一人一人に役割があることの面白さを知るきっかけとなしてほしい。また、教員にはない専門的な知識や技能を身に付けさせることができ、キャリア教育につながると考えた。

サッカーは特に難しいスポーツであり、ゲーム中の失敗はつきものである。そこで、ゲームの中では失敗したときのネガティブな感情をポジティブな感情に置き換えてほしいと考えた。プロの世界で活躍し続ける選手たちは、たとえ失敗をしたり負けたりしても、気持ちを切り替えて挑戦し、他の選手を認めてよい方向へ導くアドバイスをし合っている。学習の中で得た、そのようなスポーツマンの姿勢や言葉掛けの仕方を自分たちの日常生活に取り入れさせたい。

5 研究主題に迫るための手立て

(1) ポジティブな言葉を掛け合うことによって身に付く「自分のいいところを見つける力」

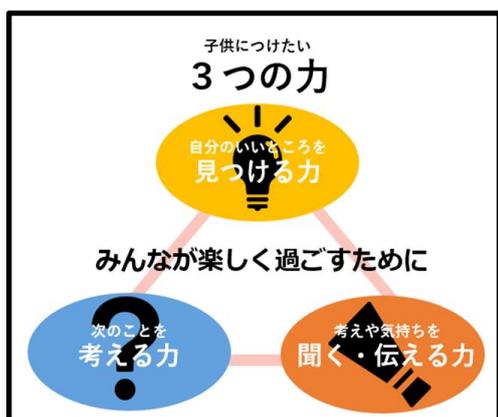
ゲストティーチャーとの関わりの中で、失敗をしたあとの行動が大切であることを実感させたい。本時では、友達のプレーを認め、よりよい方向へ向かうためにアドバイスをし合う言動を期待する。たとえ失敗をしたり負けたりしても、気持ちを切り替えて挑戦し、アドバイスをし合うことをしてきたプロの姿勢を実感することで、ポジティブ思考で物事を考えることができ、「自分(チーム)のよいところを見つける力」を育むことができると考えた。

【ナイスプレーカード】 チームや友達のナイスプレーを見付ける

(2) 作戦を意識することによって身に付く「次のことを考える力」

チームでの話し合いの場を設け、チームの特徴に応じた作戦を立てさせる。特に、攻守が入り乱れるゲームの中では、作戦を意識して運動をする必要がある。チームで考えた作戦をゲームの中で実行するために、自身が行うべき次の行動(プレー)に目を向けさせる。また、対戦相手によって作戦を選んだり練習方法を変えたりする話し合いも、次のゲームを意識する活動と言える。常に考えるという意識付けをすることで、「次のことを考える力」を育むことができると考えた。

【作戦カード】 次のことを考えながら活動する。



教科横断的な学習

【キャリア教育】

×

【総合的な学習の時間】 + ゲストティーチャー

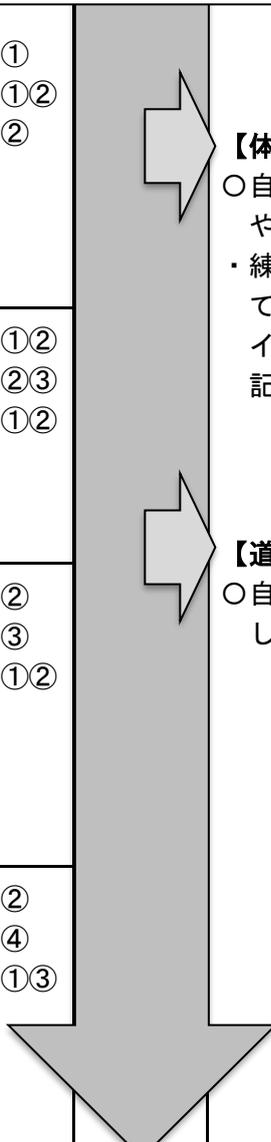
×

【体育科】

×

【特別の教科 道徳】

6 単元の指導計画【総合的な学習の時間：全5時間 体育科：全7時間 道徳：全1時間 計13時間】

	総合的な学習の時間		他教科との関連
過程	○目標 ・ 学習活動	評価基準	【 】教科 ○目標 ・ 学習活動
課題の設定 (2時間) 本時 情報の収集 (8時間) 整理・分析 (2時間) まとめ・表現 (1時間)	<学習のゴール> 自分のよさを理解してまとめよう。		
	<児童の実態> ・ 自信がなく、物事に対して消極的になってしまう。 ・ 課題解決に向けての過程や言葉の掛け合いに楽しさを見出せていない。		
	○スポーツやスポーツマンシップの素晴らしさを実感する。 ・ 講話を聞く。 ・ オリエンテーション(プロの技を見学する) ・ ボールの蹴り方や止め方を教えてもらう。 ・ 作戦カードをもとに練習に取り組む。	【知】① 【思】①② 【主】②	
	【他教科とも関連】 ○様々な活動から、自己やグループのよさや特徴を知る。	【知】①② 【思】②③ 【主】①②	
	【他教科とも関連】 ○収集した情報を整理・分析する。 ・ 体育科で使用したナイスプレーカードや、道徳で使用したワークシートをもとに、よさや特徴の根拠となるデータや資料を整理する。	【知】② 【思】③ 【主】①②	
○見つけた自分のよさを振り返りカードにまとめる。 ・ 新しく気付いたこと、これから取り組みたいことなどを記入する。 ○スポーツと自己との関わり、今後の生活や行動について考えさせ、単元を振り返る。	【知】② 【思】④ 【主】①③		
<目指す児童の姿> ・ 自分のいいところを生かして活躍の場を広げる。 ・ 次のことを考え、課題意識をもって問題解決をする。			

7 本時（全13時間中の第2時間目）

(1) 本時の目標

プロのフットサル選手と触れ合ったり話し合いをしたりする活動を通して、スポーツやスポーツマンシップの素晴らしさを実感し、ポジティブな言葉を掛け合いながら自己やチームのよさを見付ける。

(2) 本時の展開

※体育科の学習同様、準備運動をしたり安全に気を付けさせたりする。

学習過程	○主な学習内容	・指導上の留意点 ◇評価基準 ★研究主題に迫るための手だて
めあての共有	○本時の学習内容を確認する。 ・プロの選手とともに、自分やチームのよさを見付けること。 ・練習やゲームを通してポジティブな言葉を掛け合い、助け合って取り組むこと。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;">自分やチームのよさや特徴を見つけよう</div> ○チームの作戦を決める。 ・チームの特徴に応じた作戦を選択する。	・ゲストティーチャーの話から、みんなが前向きに挑戦できるような声掛けや行動をするように意識させる。
解決活動	○チームの作戦に応じた練習をする。 ・作戦カードをもとに、練習に取り組む。 ○ゲームをして個人やチームの特徴を収集する。 ・作戦を意識してゲームを行う。 ○ゲームを振り返り、チームの特徴を整理したり分析したりする。 ・ナイスプレーカードをもとにゲームを振り返る。 ○成果や課題をもとに、練習に取り組む。 ・チームに必要な練習を選択する。	・「ナイス!」「ドンマイ!」などと言葉を掛けている児童を賞賛する。 ★ポジティブな言葉を掛け合って練習やゲームをする。 「自分のいいところを見つける力」  ◇【思】②自己やグループのよさや特徴を発見し、記録している。 （観察・学習カード） ・気付いたことは確実に記録させ、今後の活動に生かせるようにする。 ★作戦を意識したゲームをする。 「次のことを考える力」  ◇【主】②仲間と言葉を掛け合い、他者と協働し、問題解決を図ろうとしている。（観察・学習カード）
まとめ	○本時の学習を振り返る。 ・各チームのよかったところを振り返る。	

大北ワールドカップ
～作戦カード～

スペイン
～パス回し作戦～

作戦: パスを回して攻め続けよう。
相手に取られなければずっと攻撃だ！

練習: 「ナンバリングパス」「とりかご」

フランス
～人がいないところ作戦～

作戦: ボールをとったら前の友達にパスをしよう。
ラストパスをして、点を取れ！

練習: 「ナンバリングパス」「トリプルアタック」

アルゼンチン
～ワンツースリー作戦～

作戦: パスをする友達を決めておこう。
パスが来る場所が分かると攻めやすいぞ！

練習: 「ナンバリングパス」「トリプルアタック」

ブラジル
～ハイプレス作戦～

作戦: 前からどンドンボールをうらいにいこう。
ボールをうばったら攻撃のチャンスだ！

練習: 「とりかご」「トリプルアタック」

モロッコ
～全員攻撃作戦～

作戦: チャンスが来たら全員で攻撃をしよう。
確実に点を決められれば強い！

練習: 「とりかご」「トリプルアタック」

クロアチア
～カウンター作戦～

作戦: ボールを取ったらすぐに走って攻撃をしよう。
走るのが得意な友達走ろう！

練習: 「ナンバリングパス」「トリプルアタック」

～ 作戦～

作戦:

練習: 「 」

練習メニュー

- ①ナンバリングパス
 - パスのゴールキーパーを指定
 - ゴールキーパーの指定を繰り返す
 - ゴールキーパーの指定を繰り返す
- ②とりかご
 - ボールをうらいにいこう
 - ボールをうらいにいこう
 - ボールをうらいにいこう
- ③トリプルアタック
 - パスのゴールキーパーを指定
 - ゴールキーパーの指定を繰り返す
 - ゴールキーパーの指定を繰り返す

ナイスプレーカード



チーム名

	よさの回数（よさを見つけられたら、「正」の字で記入しよう）【練習中やゲーム中】																				
	さん			さん			さん			さん			さん			さん			さん		
	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正	正
<もともと知っているよさ> ・足が速い。 ・自分の意見を言える など。																					
ハートのよさ ☆ほげまし合い。 ・「ナイス○○！」 ・「ドンマイ次がんばろう！」 ☆アドバイス、指示。 ・「ゴール前が空いてよ！」 ・「○○にパス！」																					
プレーのよさ ☆ナイスパス。 ・味方の動きをよく見て。 ・作戦のように。 ☆ナイスシュート。 ・相手をかわして。 ・おちついて。																					
<見つけたよさ> ・チャレンジした友達をほめた。 ・空いているところにいた。 ・ボールをよく見ていた など。																					

成果と課題

①ゲストティーチャーとの関わりやナイスプレーカードは、「自分のよいところを見つける力」（チームのよいところも含む）の育成に効果的だったか。

成果

- ・ ゲストティーチャーが、子供たちの発言や動きのよさをどんどん見付けて声掛けしてくれていた。子供たちもその影響を受けて前向きな声掛けができていた。
- ・ プロの選手がいい声掛けの例をたくさんしてくださっていたので、自然と友達に対してもポジティブな声掛けをしていた。
- ・ よさを見付ける視点がカードに書かれていたことや、先生たちの肯定的な声掛けが、よさを見付けるのに効果的だったと思う。
- ・ ゲストティーチャーから掛けてもらう言葉や同じチームから褒められるのがとにかく嬉しく、楽しそうだった。ナイスプレーカードに「正」の字が書かれていて増えていくのが視覚化できてよい。

課題

- ・ ゲームや練習を外から見ることにより、よさに気付いたり、声掛けをしたりすることができる。試合を前後半に分け、順番に外から見る時間を設ける必要がある。

②作戦カードを用いてチームで話し合う活動は、「次のことを考える力」の育成に効果的だったか。

成果

- ・ 課題に対しての練習を考える姿がたくさん見られた。
- ・ 前回の反省を前向きに話し合えることができ、とても効果的であった。
- ・ ナイスプレーカードを使った振り返りの際、反省点を述べる児童に対して、よかったよ！という前向きな声掛けを児童同士で行っていた。その後、その反省点を取り入れた練習を考え、行っていた。
- ・ 作戦カードに国名が記載してあったため、児童がこの單元だけでない広がりを感じるできていた。